

令和3年度 第73回 卒業式 校長式辞

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。このハレの日を迎え、教職員一同、大きな喜びを感じています。

私が皆さんと過ごした二年間は、突然の休校期間から始まりました。コロナ禍に翻弄され、皆さんの心は不安一色でした。相談日や個人面談など、わずかな登校の機会に、皆さんはかけがえのない時間を懸命に過ごしていました。それが今のみなさんの誇りにつながっています。そして今、その旅も終わろうとしています。小学校生活の終着点に辿り着き、大きな軌跡を残し、明日から新たな世界に旅立ちます。

今日、児童代表の言葉とともに披露する歌声は、小学校生活の集大成の一つです。旅立ちに向けて、そのお話をします。

学校の中では歌うことさせ叶わぬ日々、オンライン授業で一人一人が練習を重ねてきました。ようやく先週、わずかな時間でしたが、心を密にして、互いの声を聴き合いながら、美しいハーモニーを奏でました。

5年生もそうです。地球聖歌～笑顔のために～。6年生への感謝の気持ちと、その歴史を紡いでいくという思いが心の底まで伝わる素敵な歌声です。地球上の誰もが笑顔になれる平和で幸せな未来は、どこかの誰かではなく自分たちが創っていくんだという力強さを感じました。

6年生が「旅立ちの日に」とともに歌った「伝えていこう」は、東日本大震災を乗り越えて懸命に歩んでいる高校生らを応援するために、ジャズピアニストの遠藤征志氏が作詞・作曲したものです。先日、皆さんは、遠藤氏とオンラインで対面し、この楽曲に込められた願いを自分事として置き換え、共に過ごしてきた仲間への思いと新しい世界へ踏み出す決意を込めて歌いあげました。

3つの歌には共通の願いが込められていると感じます。それは、「生きる」ということです。今を生き、未来を生きるということです。

東日本大震災を知らない人や忘れてしまった人もいます。しかし今も苦しみ「どう生きるか」を自問しながら生きている多くの人々がいます。

新型コロナウイルス感染症は2年前、突然、私たちの世界に入り込み、世界の価値観を変え、社会の大転換を起こしました。

そして今、同じ地球の上で、自然の脅威でもウイルスでもなく、人間が戦争を引き起こし、世界の平和の根幹を破壊しています。

私たちは、混沌とした情勢に直面しています。私たちの未来は極めて不透明です。そのような今、新たな世界を創造してことが「未来の守護者である」皆さんに託されています。皆さんには、その力があります。

今年チャレンジした「思索コンテスト」、5年生のテーマは「人生を豊かにするのは…」、6年生は「人はなぜ学ぶのか」。書き上げた文章に真剣に思いを巡らせた一人一人の答えがあります。学ぶとは、人生とは、生きるとは何か。生きるとは、なりたい自分になる自己実現です。

私にとっての生きるとは、よりよく生きること、人のために生きることです。人のために生きるとは、私の人生を豊かにし、よりよく命を全うするものと信じています。自分の人生を最後まで、どう生き切るかは、今、どう生きるかです。

皆さんは、6年間の小学校生活を通して、多くのことを自分事として学びました。小さなことでも全てやりきろうとする皆さんです。今、一人一人が卒業証書を受け取るその姿からも、皆さんの逞しい成長と強い意志を感じました。これまでの学業に対する努力と研鑽を、心から讃えたいと思います。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。長きにわたってお子様を育て、支えてこられた皆様に対して、深く敬意を表したいと存じます。また、入学以来、本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたことに、謹んでお礼申し上げます。

結びになりますが、本日は、昭島市教育委員会指導課長 小林邦子様のご臨席を賜り、心よりお礼を申し上げます。今、輝かしい門出を迎える卒業生に対し、一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

さあ、卒業生の皆さん、旅立ちの時です。皆さんと出逢えて嬉しいです。今までありがとう。本当にありがとう。さようなら。お元気で。

令和4年3月25日

昭島市立富士見丘小学校長 稲垣 達也